Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka 2015-12-25

APM news 141

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館（旧北越銀行宮内支店）

〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

第31回美術館大学 10月3日(土)pm3:00〜4:30／受講者：55名／講師：大町駿介、柏大輔、末房志野、秋山孝

「日本ブックデザイン賞2015について」

日本ブックデザイン賞（JBD）は、秋山孝ポスター美術館長岡（APM）初開催の事業である。第31回美術館大学では、「日本ブックデザイン賞2015について」と題して、応募作品やブックデザインの魅力について講演会を開催した。館長の秋山は「なぜポスター美術館でブックデザインを扱うのか」ということについて、ポスターは一枚の紙で表現することを求められ、瞬間的な喚起や理解を促すことができる一方、本は何百枚という紙に知識や知恵が詰め込まれ、読み進めることにより理解する。一見両者は異なるものだが、メディアが紙であるという共通点、印刷技術を使ってより安価に、より多くの人々に周知するという類似点がある。それは呼応し響きあう関係である。ポスターのことを深く知るために、本も取り上げたい、と述べた。

続いて、受賞作品について話しを伺った。大町氏は私家版『宮内・摂田屋百景』でグランプリを授賞した。宮内・摂田屋という地域で、特別な人が残した特別な建物ではなく、一般の人々が修繕しながら使ってきた昔ながらの民家が残っていることに感動し、作品を著したという。柏氏は『Daisuke Kashiwa illustration sources 1,000 Vol.3 』と題し、1冊に1000点のイラストレーションが収められている。ポスターに用いられるイラストレーションに興味があり、どのようなものに魅力を感じるかを研究したところ、「テーマを表現していること」「テーマアピール力があること」の2点であると考えた。その考えが表れている作品をまとめた本だという。次に各々が影響を受けた本について話しが続くと、秋山はワーズワースの詩集や東洋の経本などの実物を見せながら、本の歴史、役割、技術などを紹介した。例えば本の小口に圧された箔は、本をしみや虫から守り、拓本で作られた書物は印刷された書物よりはるかに長期にわたって保管できると述べた。大町氏は今和次郎著『日本の民家』を紹介し、日本の民家を体系的に記された初めての書籍で、一般の民家を選んでいるところが素晴らしいと感じたそうだ。写真ではなくイラストレーションを用いることによって、著者が建物のどこに魅力を感じているかがよく伝わり、感銘を受けた。そこから『宮内・摂田屋百景』が生まれたという。柏氏はベルギーのイラストレーター、ジャン・ミッシェル・フォロンの『Poster of Folon』を取り上げ、フォロンの作品の紙面での配置が、ポスターを理解していなければなしえない構成だとその魅力を語った。また、初版版のみではあるが、フォトリトグラフというフォロンの作品の特徴にを表現するのに適した印刷手法が用いられている点も紹介した。

末房氏はグランプリを受賞した作品が大町氏の作品であったことに当初驚きを感じたが、審査員の審美眼の正しさに心を打たれたという。コンペティションなどでは、とかく目を引く作品に賞が授けられがちである。秋山は審査員は応募してくれた人たちに正しい評価をしたいのだ、と述べた。才能のある人に正しい評価を与えて太鼓判を押してあげたい。才能のある人が世の中で活躍してほしい、というのがブックデザイン賞の根本であるとまとめた。（森山奈帆・APM職員／公式ホームページより抜粋）